

## 1. 太陽の輝き～明日への活力～

2. 愛知県知多郡武豊町

3. すこやかデイサービス

4. 介護職員（路ユニットリーダー）

5. 佐久間 恵

### <はじめに>

すこやかデイサービスは、知多半島の中間に位置するところにあります。定員34名で、創・湯・路の3つのユニットから構成されています。

創は、個々に合わせた様々な日常生活要素を取り入れ、心と身体のリハビリを継続的に行っています。湯は、身体的に重度の利用者様が多く、意思伝達やコミュニケーションが難しい方が多いですが、肌と肌が触れ合うスキンシップとぬくもりを大切にしているユニットです。路は、昭和の雰囲気漂う空間で、心も身体も楽しくイキイキと、生活そのものから認知症予防に取り組むことを目的としたユニットです。

開所時より、利用者様にとってどのような形が満足して過ごして頂けるものなのかを考え、模索して約10年！利用者様が、自分で出来る、暮らしの中で活かしていける行動が、喜びや充実感へ結びつき、得られた充実を更に有効活用し、自分の力を発揮する積極的な心「想い」をカタチにすることを目指して、色々な取り組みを各ユニットごとでチャレンジしてきました。その最たるものは、鶴亀通貨システムの導入です。

「鶴亀通貨」とは、利用者様がデイサービス内でお仕事をする報酬として通貨が発生し、その通貨を利用者様が自由に使える共通ツールです。単位は「亀」です。

お仕事をする⇒収入を得る⇒購入する、使う、貯蓄⇒またお仕事をするのスパイラルが成り立ち、「生きる力」に繋がるのではと考えました。

### <目的>

認知症の方が多い路ユニットでは、昔ご自宅で畑をやっていた方が多く、土いじりが趣味という方も多くみえましたが、今は畑が出来ない方や一人では難しい方ばかりでした。デイサービスの畑仕事を通して、“生きる力”を引き出せないかと考えました。

利用者様と畑との関わりから学びがあった、活動の事例発表させていただきます。  
尚、今回の写真、内容については利用者様、ご家族様に使用説明、同意の上使用させて頂いています。

#### <事例の紹介>

対象は路ユニットご利用者様14名。

14名の内訳は、介護度1・2の方が10名、要支援の方が4名です。

アルツハイマー型認知症、パーキンソン病等の主疾患はあるが、ADLはほぼ自立されており、身体を動かす事が好きな方が多く、認知症を患う前は、畑作業や旅行などアクティブに行動されていた方が多いメンバーです。

#### <支援の経過①>

平成26年5月に開所した頃は何となく畑があるから、畑を全員でやって、職員が管理し、水やりや収穫のみを利用者様に「お手伝い」していただいていたいました。利用者様の意思は関係なく、職員の考えでユニット全体での畑活動として行っていました。季節の野菜がそれとなく育ち、「良かった良かった」で終わってしまっていました。

#### <支援の経過②>

令和5年4月から個別機能訓練が導入されました。

個別機能訓練の一貫として、畑活動を導入しては？との意見があり、早速それまでは介護職主体で行っていた畑活動を、セラピスト主体にシフトチェンジし取り組む事になりました。

「畑での作業を通して利用者様に楽しみ・生きがいを感じてもらおう」ことを目的とし、大まかなルールを設定を行い、

- ① 区画に分け、1畝を5000円で購入してもらう
- ② 苗植え、水やり、収穫を利用者様に行ってもらい、困難な部分は職員が手伝う。担当の利用者様以外は手を出さない
- ③ 収穫した野菜は、持ち帰りか亀にて販売していく

そして、活動の前後で身体面の評価を理学療法士が行い、精神面の評価は介護職が行うこととしました。

当初は、最初の「苗植え」と最後の「収穫」のみへの関心と関わりが強く、利用者様が自主的に行う事は少なく、逆に職員が行う作業は増え、職員の負担が多くなってしまいました。

### <支援の経過③>

各畝を自己管理していただく工夫をしたところ…

来所されるたびに利用者様の意思で畑へ出て、ご自身で育てている野菜の様子を観察されたり、水やり等のお世話を自主的に行って下さるようになり、大きな変化がみられました。職員やご家族との会話の中にも、畑についての会話が増えていったように感じました。また、ご自宅で初めてのプランター菜園に挑戦される方や、諦めていた自宅での野菜作りの再開へ繋がった方もおり、畑の取り組みが「生きる力」に繋がったと感じた瞬間でした。

### <考察>

自分らしく過ごせている事が、達成感、充実感へと変わり、また畑を通し作物の成長と共に気持ちの変化が現れたと考えられる。

### <まとめ>

人は誰かに頼られ、感謝されることで喜びへと変わります。そのために、利用者様は何を求めどんなことが楽しく感じているかを理解し、『できることを』『当たり前』『やって頂き』『評価する』という4つのことが上手く噛み合わさる事で、心と身体の歯車がまわりはじめるのではないのでしょうか。

私達スタッフ側の課題としては、しっかりと利用者様の情報を収集し、アセスメントをし定期的に見直す事が重要です。

太陽の光を浴び、畑仕事に精を出す利用者様たちの笑顔が、私たちスタッフにとっての「原動力」です。これからも、もっともっと色々な事にチャレンジし続けていこうと思います。